

MDS 探究 A テーマ設定支援ルーブリック

観点	本質的な問い	Lv3 到達してほしい姿	Lv2 多くの生徒の出発点	Lv1 支援が必要
① 興味・問題意識との接続	この問いは「自分たちが知りたいこと」になっているか？	自分たちの経験・疑問・関心と研究テーマが明確につながっており、「なぜこのテーマか」を自分の言葉で説明できる。グループ内で問題意識が共有されている。	自分の興味に基づくテーマを挙げられているが、「なぜそれを調べたいか」の言語化はまだ漠然としている。	研究分野は決めたが自分自身の問題意識が希薄、または興味とテーマが離れている。
② 問いの具体性・検証可能性	何を、どう調べれば答えが出る問いになっているか？	「何を変数とし、何を測れば/調べれば答えが出るか」が見える形で問いが書けている。理科・数学の手法(実験・観測・調査・計算)に乘せられる見通しがある。	自分の疑問は表現できているが、抽象的で「具体的に何をすれば答えになるか」までは絞れていない。	テーマが「〇〇について」というキーワード止まりで、問いの形になっていない。
③ 意義づけ (学術的・社会的位置)	なぜこの問いを調べる価値があるのか？ 既に分かっていることは何か？	先行研究やすでに知られている事実を最低 1 件は調べた上で、自分の問いがそれとどう違うか/どこを掘り下げるかを説明しようとしている。	「環境問題だから」「身近だから」など漠然とした意義は述べられるが、先行研究や既知の知識との位置関係は調べていない。	研究の意義を見出せず、「やりたいから」「面白そうだから」以上の説明ができない。
④ 実現可能性	高校 2 年生の学期内に、本校の環境で実行できるか？	使える時間・場所・機材・安全面・倫理面を踏まえて、本校で 1 年間(または半年)で取り組める形にテーマを絞り込めている。	やりたいことはあるが、必要な機材や時間、安全面の検討はこれから。教員の助言で絞り込みが進む段階。	壮大すぎる/漠然としすぎていて、何から手をつければよいか見通しが立たない。

【運用上のメモ】

- ・このルーブリックは生徒を査定する道具ではなく、教員間で「次はどう助言するか」を共有する物差しです。
- ・Lv2 の生徒への指導方略例: ①子どもの頃の疑問を書き出させる/研究者の話を聞かせる ②何を測れば確認できるか問う/具体的なパラメータを挙げさせる ③先行研究を 1 つは読ませる/人がやっていないところを探させる ④使える機材・時間・場所をリスト化させる/身近なもので検証できるものを探させる

【参照資料】 本校 一般的ルーブリック / 啓林館『理数探究基礎』第 1 章第 2 節「課題の設定」 / 大貫守(2019)「総合的な探究の時間におけるルーブリックの開発と活用」

テーマ設定 評価記録シート

講師からの Lv 評価とコメントをいただき、書き止めてください。授業終了時に提出してください。

グループ名	
テーマ(候補)	
記入日	

観点	Lv3	Lv2	Lv1	次のステップへ向けての助言・コメント
① 興味・問題意識との接続				
② 問いの具体性・検証可能性				
③ 意義づけ(学術的・社会的位置)				
④ 実現可能性				

総合所見・次回までの課題

--